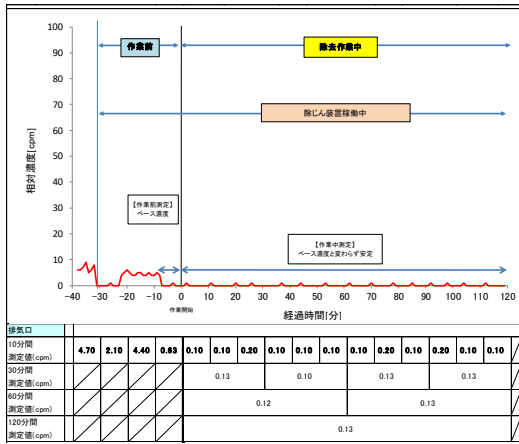


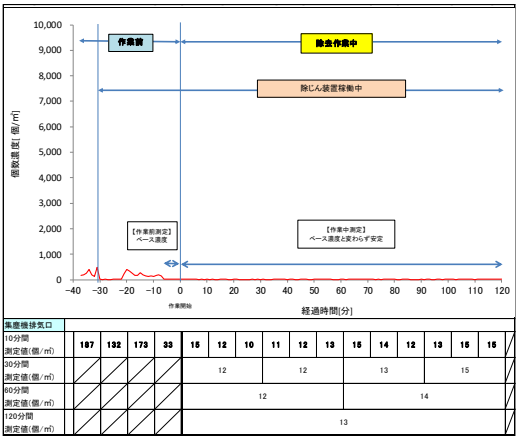
解体現場でのデジタル粉じん計・ パーティクルカウンター等連続測定データ

漏えい等がなく、問題のなかった事例

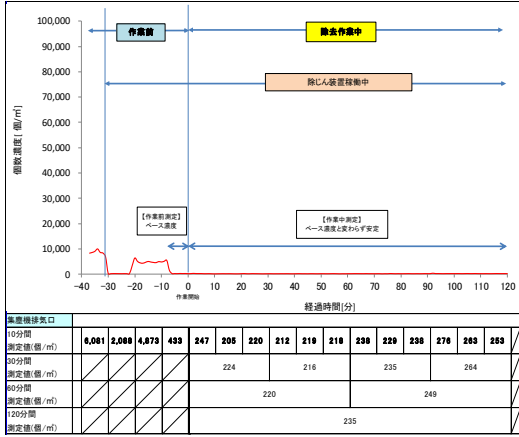
デジタル粉じん計



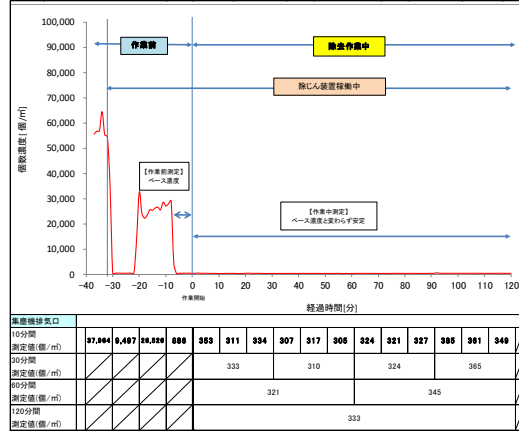
パーティクルカウンター



パーティクル(5.0μm)

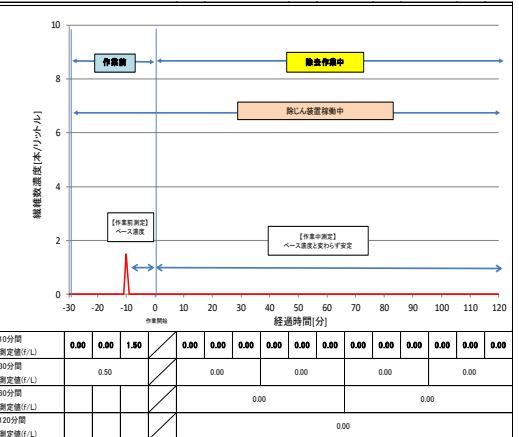


パーティクル(0.5μm)



パーティクル(0.3μm)

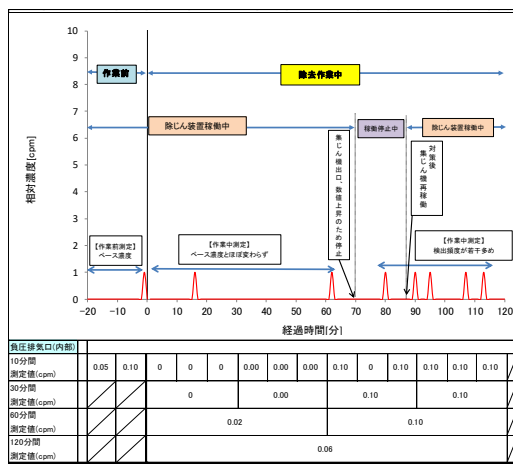
リアルタイムモニター



総繊維数濃度: 0.11本/L

H29年度アスベスト大気濃度調査(解体現場№39: 負圧除じん装置排気口)

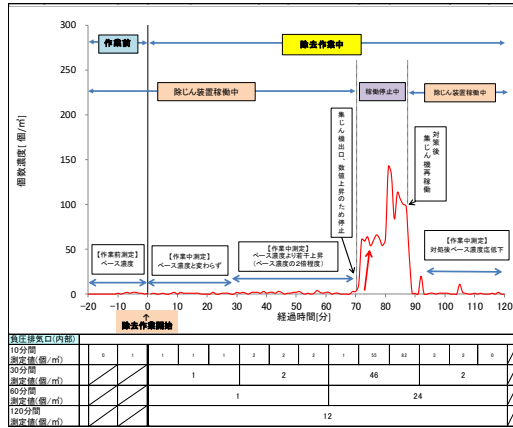
デジタル粉じん計



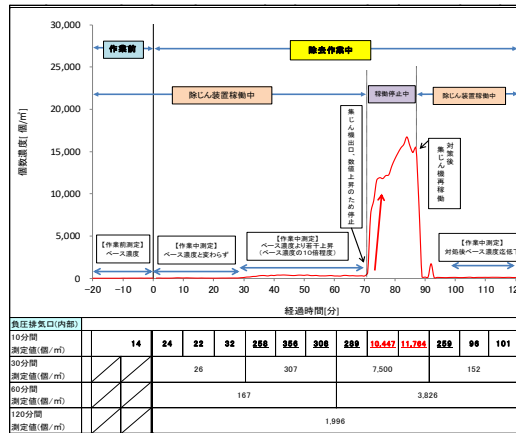
作業途中で、負圧除じん装置排気口より粉じんの漏えいが確認できたため、作業を中断し、対策した事例

総繊維数濃度の結果は、0.22本/Lであったので、漏えいした粉じん中に含まれている繊維は、低かったものと推察される。

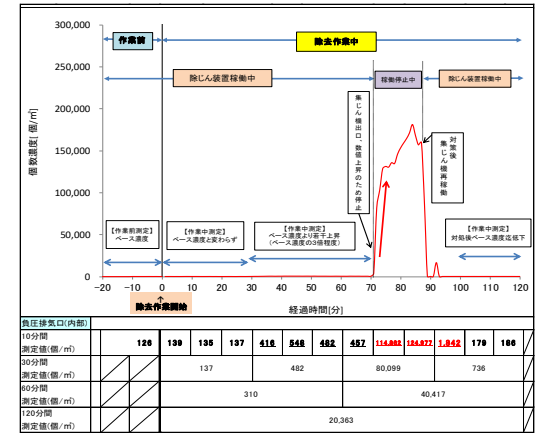
パーティクルカウンター



パーティクル(5.0µm)

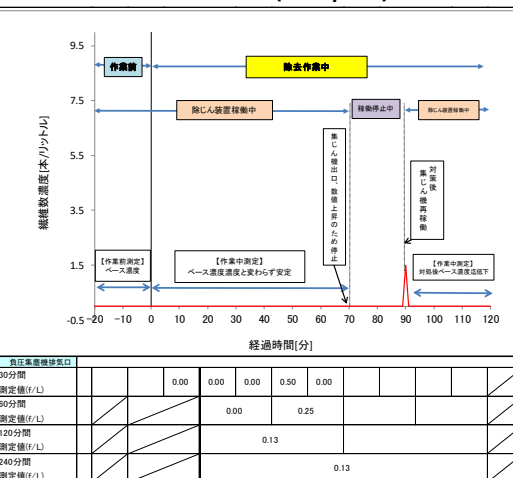


パーティクル(0.5µm)



パーティクル(0.3µm)

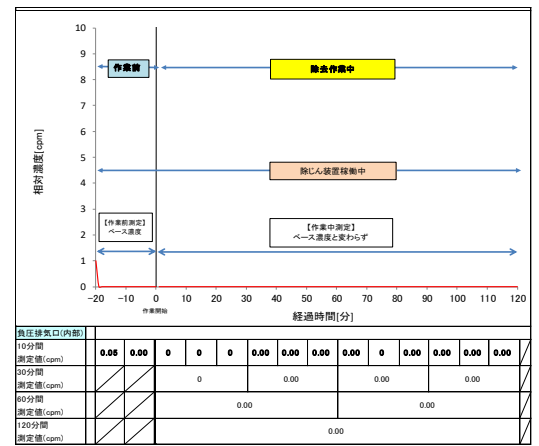
リアルタイムモニター



総繊維数濃度: 0.22本/L

H28年度アスベスト大気濃度調査(解体現場№39: 負圧除じん装置排気口)

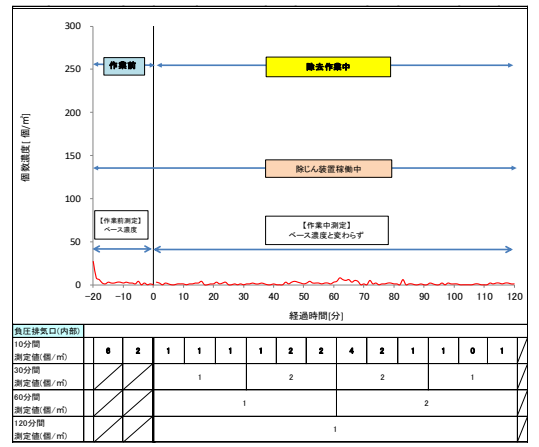
デジタル粉じん計



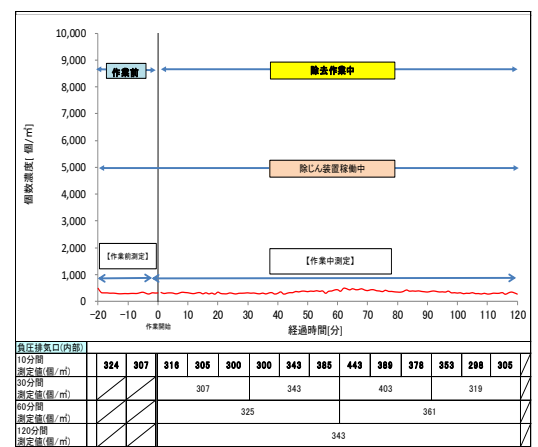
粉じんの漏えいが確認できなかった事例

集じん排気装置稼働後の除去作業前に漏えい確認ようとして測定したベース濃度測定から実際の作業開始後の作業中の測定まで、デジタル粉じん計、ファイバーモニターの数値は、終始0カウントであり、パーティクルカウンターも漏えい確認用として測定したベースの作業前の濃度とほとんど変わりが無く、作業中の漏えいの兆候は確認できていなかったが、PCM法の結果、総繊維数濃度が3.8本/Lと総繊維数濃度が1本/Lを超過していた。

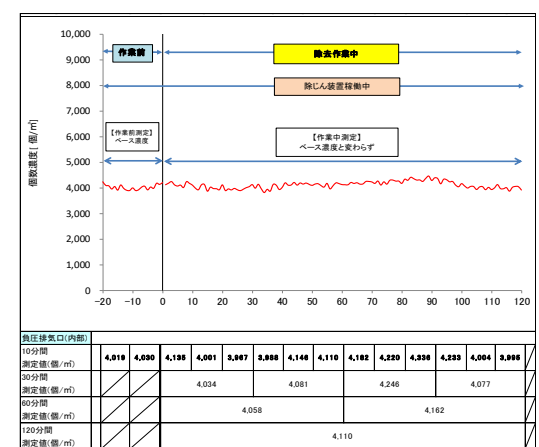
パーティクルカウンター



パーティクル(5.0μm)

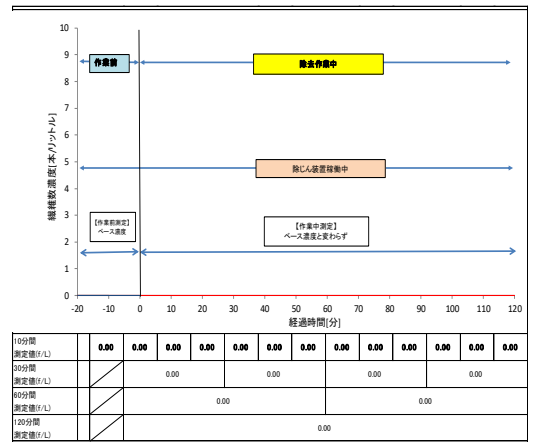


パーティクル(0.5μm)



パーティクル(0.3μm)

リアルタイムモニター



総繊維数濃度: 3.8本/L
(アスベスト繊維数濃度: ND)

H28年度アスベスト大気濃度調査(解体現場№40: 負圧除じん装置排気口)